

発達的な観点から見た療育指導の在り方に関する研究  
(分担研究：発達的な観点から見た療育指導の在り方に関する研究)

分担研究者：小西行郎<sup>1</sup>

研究協力者：伊藤正利<sup>2</sup>、白瀧貞昭<sup>3</sup>、広川律子<sup>4</sup>、松木健一<sup>5</sup>

小西薫<sup>6</sup>、北原侑<sup>7</sup>、八木隆三郎<sup>8</sup>、富和清隆<sup>9</sup>

杉本健郎<sup>10</sup>、栗原まな<sup>11</sup>、二木康之<sup>12</sup>、須貝研司<sup>13</sup>

北住映二<sup>14</sup>

要約：

障害児のライフスタイルからみた療育の現状を発達的な観点から分析した。発達障害の早期診断と療育については、診断に用いるチェック項目の検討、療育については、地域における療育のシステム化、療育指導の問題点、療育にたいする保母の意識などについてアンケート調査した。療育法の見直しについては、運動療法や集団療法の現状と問題、さらには親からみた療育に対する評価などについてアンケート調査した。学童期以降の療育については、障害児にたいする医療従事者の意識調査、学校における医療ケアや在宅障害児の療育指導について検討した。重症障害児の人工呼吸療法にも検討した。障害児親の会の実態をアンケート調査によって明らかにした。見出し語：療育指導、発達障害、障害児、医療ケア、

研究方法：

1. 発達障害の早期診断と療育について
  - ①地域における診断と療育のシステム化
  - ②発達障害の診断に有用な診察項目の検討
  - ③療育指導における兄弟の問題
  - ④統合保育にたいする保母の意識調査
 以上の問題について研究協力者がそれぞれ検討した。③と④についてはアンケート調査を実施した。
2. 療育法の見直し
  - ①親から見た療育の評価
  - ②非麻痺盛運動発達遅滞児の運動訓練の検討
  - ③発達障害児の集団療法の現状
 について検討した。①と③はアンケート調査を行なった。
3. 学童期以降の障害児医療の在り方について
  - ①障害児にたいする医療従事者の意識調査
  - ②養護学校における医療ケアの実態
  - ③在宅障害児の療育指導について
 主としてアンケート調査を行ない、現状把握を試みた。
4. 重症障害児の医療について
  - ①重症障害児の人工呼吸療法について
  - ②障害児親の会の実態
 ①については現状と問題点の分析、②についてアンケート調査を行なった。

研究結果：

1. 発達障害児の早期診断と療育について
 

伊藤は滋賀県において小児保健医療センターと保健所および市町村保健センターの連携を中心にした発達療育相談事業の在り方を検討し、それぞれ役割分担、対象児の検討し、あらたなシステムを作った。白瀧は発達障害児の診断に母子相互作用と自発運動の評価を重要な指標として検討したが、この方法は保健所においても容易に用いることが出来るもので、有効な診断法であるとしている。広川は療育相談の場で、障害児の兄弟の問題に着目したが、いじめや不登校などの心身症などの頻度も高く、障害児の療育指導を考えると重要な問題であることが明らかになった。保育園における統合保育は今後障害児の療育の重要な課題となると思われるが、松木は統合保育に関するアンケート調査を保母に行なった。その結果ほとんどの保母が障害児の受け入れに不安とをもち障害児にたいする理解が低いことを明らかにした。保母への教育が重要であることが判明した。
2. 療育法の見直し
 

療育法の見直し小西は集団療育の実態調査を行なっているが、今年度はいくつかの代表的な施設に調査を行ない、全ての施設で集団療育が行なわれており、むしろ理学療法士より作業療法士が中心的に働いているとの印象を得た。全国調査は今年

1)Dept. of Pediatrics, Fukui Medical University, School of Medicine, 2)Siga Medical Center for Children, 3)Dept. of Neuropsychiatry, Kobe University of Medicine, 4)Dept. of Psychology Minami Osaka Ryoikuen Hospital for Disabled Children, 5)Dept. of Education, Fukui University, 6)Dept. of Pediatrics, Fukui Hospital, 7)Kitakyushu Sogo-Ryoiku Center, 8)Dept. of Pediatrics, Hyogo prefectural Nojigiku Medical Center for Handicapped Children, 9)Dept. of Paediatric Neurology, Osaka City General Hospital, 10)Dept of Pediatrics, Kansai Medical University Otokoyama Hospital, 11)Dept. of Community Based Rehabilitation, The Kanagawa rehabilitation Center, 12)Dept. of Child Neurology, and Clinical Psychology and Counseling Service, National Center Hospital for Mental, Nervous and Muscular Disorders, National Center of Neurology and Psychiatry, 14)National Rehabilitation Center for Disabled Children.

早々に開始したところである。北原は非麻痺性運動発達遅滞児への運動訓練について検討し、その意義、効果および限界を明らかにし、運動訓練だけにとどめない長期療育支援システムの必要性和強調した。その技術論は今後の検討課題である。八木の調査では、親が今まで受けてきた療育指導についてどのように考えているのかが明らかになったが、とくに行政と保健所の療育制度などについての情報伝達に不満をもっていること、地域療育システムのなかで保健所が十分に役割を果たしていない事が明確になった。

### 3. 学童期以降の障害児医療の在り方

富和は障害児に関する意識調査開業医に行なうために行政や医師会と交渉を行なったが、アンケートの作成について検討し、今年早々に調査を実施する予定になっている。また彼の研究では、年齢を重ねるに従って、障害児の健康状態は悪化することが多く、介護や医療への需要が大きくなることが明らかになった。杉本は大阪の養護学校の実態調査をおこない、校医の在り方について検討し、小児神経医を校医にする必要があることを強調した。

北住も養護学校の医療ケアの実態についてアンケート調査を行ない、法的な問題の整理、行政的対応にも問題が多く、人員などの問題も含めて、いくつかの問題があることを明らかにした。栗原は在託児の短期入所の実態を報告し、療育指導の有効性を明らかにしたがこの事業に対する経済的問題も重要である。

### 4. 重症障害児が医療について

須貝は重症障害児の人工呼吸器療法の実態について報告した。いままでは一生施設で生活することが当たり前と考えられていた重症障害児が、人工呼吸器を使用することによって在宅で生活できるようになっていることを報告し、その問題点についても明らかにした。小西は福井県における障害児親の会の実態調査を行なった。それによれば施設別、疾患別の親の会だけでなく、最近では地域別の親の会が多くなっていることが明らかになったが、それには保健婦の存在が大きなことも明らかであった。保健所や行政にたいする要望では情報の提供と資金援助が多かった。親の会の課題は、就学問題や作業所、就職などが多く見られた。

## ABSTRACT

The current status of medical and nursing care for handicapped children as it relates to their lifestyle is analyzed from the standpoint of development. Early diagnosis of developmental disorder is reviewed with respect to the checkpoints used. Medical and nursing care is assessed by questionnaire survey concerning systematization of such in communities, difficulties with care and guidance, health workers' view on care and guidance. Methods of medical and nursing care are reviewed by questionnaire survey on the status and problems of exercise therapy and group therapy and parents' assessment of current care. As medical and nursing care for handicapped from school age onward, medical professionals' views on such handicapped, medical care at schools, and care and guidance for handicapped staying at home are reviewed. Artificial respiration therapy for heavily handicapped is discussed. The profile of activities of association of parents having handicapped children is revealed by questionnaire survey.



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:

障害児のライフスタイルからみた療育の現状を発達的な観点から分析した。発達障害の早期診断と療育については、診断に用いるチェック項目の検討、療育については、地域における療育のシステム化、療育指導の問題点、療育にたいする保母の意識などについてアンケート調査した。療育法の見直しについては、運動療法や集団療法の現状と問題、さらには親からみた療育に対する評価などについてアンケート調査した。学童期以降の療育については、障害児にたいする医療従事者の意識調査、学校における医療ケアや在宅障害児の療育指導について検討した。重症障害児の人工呼吸療法にも検討した。障害児親の会の実態をアンケート調査によって明らかにした。